

新体制6月1日から



村消防団

団長に佐藤氏を発令

精鋭の活躍に大きな期待

▽ 常設消防の発足に伴ない組織の改編が急がれていた村消防団の新体制は、六月一日、任命辞令の交付によって正式にスタートしました。

△ 六月一日、任命辞令の交付によって正式にスタートしました。

▽ 常設消防の発足に伴ない組織の改編が急がれていた村消防団の新体制は、六月一日、任命辞令の交付によって正式にスタートしました。

▽ 常設消防の発足に伴ない組織の改編が急がれていた村消防団の新体制は、六月一日、任命辞令の交付によって正式にスタートしました。

村道新設12カ所発注

須郷田跡見坂線は一、〇〇〇メートル

六月十一日、本年度の村道関係十二カ所、事業費総額二千六百二十八万五千円に上る新設・改良・改修等の工事が発注されました。

主なものは次のとおり。

須郷田・跡見坂線改良延長九百九十九万三千円。柳沢利一・上里線改良延長二八七

村民球 二千人の参加で湧く

技大会 蔵チーム執念の初優勝



【写真】大会風景 カスリのモンペで熱戦を展開

六月十七日、台山グラウン全村球技大会は、部落対抗家ドを中心に開催された第二回庭バレーボールなど三種目に

盛大に行なわれました。家庭バレーボール用の七面のコートでは、エントリール部対抗三チームと四〇歳以上の部六チームの熱戦が展開されたほか、リーグ戦による九人制バレーボールは五チーム、本庄高校下郷分校グラウンドでは九チームによるソフトボールの試合も行なわれ、広い台山は終日湧き立ちました。

契約栽培などに意欲

現場に直結する「農近ゼミ」

農業青年の育成を主目的とする農産近代化ゼミナールが、実際の経営や現場から遊離しているというグループ員からの反省の声に応え、本年度からその予算関係が社会教育部門から産業経済部門へ移項、より充実できるよう配慮がなされています。

それにもつき、農近ゼミ玉米グループ(小松義興会長、会員八名)は、一畝の休耕田を利用して、ソリスやケチャップの原料となる加工用トマトの契約栽培を試み、このほど植えつけ作業を行いました。

土地一ヘクタ以上 売買は届出必要

乱開発防止に「土地対策要綱」作成

かけがえのない「地球」の自然を守ろうという運動が国際的に高まって来ています。一たん破壊された自然をもとに戻すのは至難のことで、何十年、何百年もの長い年月を必要とするばかりか、ものによっては永久に不可能でもあります。

それだけに、すべての開発は地域住民の生活を損うことのないよう、慎重な計画のもとに行なわれなければなりません。

その概要は次のとおりです

①届出 山林・原野・耕地など、土地に関する所有権または使用及び収益を目的とする権利を有償で移転する場合、町長と協議の上、契約内容を望んでいます。

県展で「連続特賞」

館合出身の高橋さん

「第十五回秋田県美術展」が六月十六日から二十四日まで県立美術館で開催され、本村出身の高橋義子さん(22歳)の作品「白毛」が昨年に引き続き日本画の部で力量を発揮、二年連続特賞の栄誉を獲得しました。

作品は、実家(玉新田、園子さん宅)で飼っていたベッコトのネコが題材で、突然の死に対する悲しみと愛着を、一



高橋義子さん

「よい素質を持っている。中央の白いネコとそれを取り巻く華麗な構図がよくマッチして重厚な感じ。実力を十分発揮した力作」と激賞、今後活躍に大きな期待を寄せられています。

「故郷の自然が好き」といふ高橋さんを、たまたま帰省中の実家に訪ねた連続特賞の感想を求めたら「ラッキーというところでしょネ。あの絵は一部未完成だったし、ほかにくれた作品がたかさんありであるだけに、今後の精進つたんですから」と、中央画壇でも高く評価される大賞



沢 祝

部落紹介

村内六十四部落中、最もおめでたい名で旧横荘鉄道(現県道老方・沼館線)沿いの四つの小集落に人家が点在、小学校の常設分校のある部落が祝賀です。

部落の生命線は、廃止された旧鉄道跡地の県道で、両端にはトンネルがあり村中心部から約四キロの距離にトンネルが浮蓋トネルです。

横荘鉄道は、横手・本庄間の出羽丘陵横断鉄道として計画され、昭和六年の横手・老方間開通時はチョウチン行列による祝賀パレードも行なわれ、本村の経済

て活躍、同39年からは副団長の要職をつとめているベテランで新体制の統率に手腕が期待されています。

幹部団員は次のとおり。

【副団長】 畠山富男(57歳石高) 太田千代三(53歳新田)

【分団長】 ①佐藤幸一(津沢) ②小松安雄(松柴) ③村上種次(新町) ④石渡力造(新田) ⑤梅津栄一(大琴)

【副分団長】 ①小松正幸(高

り三〇〇頭の収量を目標にしています。

本村農業の近代化を模索する若人たちが、実益の伴なうこうした学習に大きな意欲を燃やして取り組んでいるだけに学習の成果には、全村民から大きな関心が寄せられています。

【母子衛生講座】開設

七月六日(14時~16時)役場で「母子衛生」に関する健康大学講座が開催されます。多数聴講ください。

【慶弔だより】

5月26日~6月25日

○ 出生おめでとう

佐藤良子 下小屋 十内四女 長谷山希美子 下通清志長女 佐々木誠 新町 捷一 長男 小松勝子 高戸屋 勝典三女 遠藤正人 宿 敏正 長男 小野千春 新町 久雄 二女 工藤伸哉 新旭 勇典 長男 遠藤正幸 館西 正輝 長男 小松和幸 高戸屋 正武長男

○ 結婚おしあわせに

高橋 ミエ子(祝) 舟木 小松 賢悦(祝) 玉新田 由美子(祝) 智者 鶴田 小松 久子(祝) 須郷 山松 マリ子(祝) 須郷 遠藤 貞代(祝) 高 倉村

○ おわび

村報六月一日号、中学校植樹関係記事の「田口良二先生」は「田口靖一先生」。

放牧場関係の「六月末満九〇円、六月以上一〇〇円子連れ一〇〇円」は、それぞれ「一〇〇円・一〇〇円・一三〇円」の誤りにつき、お詫びの上、訂正させていただきます。

村報六月一日号、中学校植樹関係記事の「田口良二先生」は「田口靖一先生」。

放牧場関係の「六月末満九〇円、六月以上一〇〇円子連れ一〇〇円」は、それぞれ「一〇〇円・一〇〇円・一三〇円」の誤りにつき、お詫びの上、訂正させていただきます。

明王を祀った四坪ばかりの御堂が建てられており、眼病の神として多くの人から信仰されています。

同時に、同部落の産土神でもあり「国土安穩村中安全」や堂前のブナの幹には「武運長久」などという字句も見られ、部落民の心の支えとなっています。

谷間のせせらぎや落ち込む滝の音が四方にこだま、時折りかかか鳴く同所は俗世を離れた我がの境地にたれる別天地でもあります。

部落民は、こうしたすぐれた自然を愛し、出羽丘陵開発が昔時の夢をよみがえらせることに大きな期待を寄せています。

また、婦人たちは家庭教育学級を開設して時代に遅れまいと努力を重ねています。人口九〇人。世帯数二二。

やっぱり総合病院だ!

豊富な検査科目に驚きと喜び

六月二十五日、本年度から県が行なう「動く総合病院」が全県のトップをきって本村袖山小学校に開設され、須郷・大吹川・袖山三部落住民の半数以上に上る一四三人が受診、好評を得ました。



【写真】最近の調子は…内科検診風景

動く総合病院は、医療機関に遠く、健康管理や診療などに不便をかこっている全県六十七の無医地区の中から重点地区を選定、無料で地区民の総合的な健康審査を実施、健康管理を一層強化充実させることをネライとするもので、昭和三十六年以来続けられて来た「へき地巡回診療」にかわるものです。

対象となった三部落は、常設医療機関のある村中心部まで九キロから十二キロもある辺地であるだけに、医療機関の確保は切実な問題であり、地区民の健康を守るための自衛手段として大琴部落に診療所が開設されると同時に「運営協力会」構成部落となつて



【写真】さそい合つて会場へ

午前十時の開院前から会場につめかけたある中年の婦人は「やっぱり総合病院だ!」と、豊富な検査科目に驚き、今後も定期的に開設してほしいと希望を語っていました。検査結果は「健康管理個人カード」に記入され、今後の保健活動や辺地医療の充実に向けて立てられることになっています。

生活改善センター利用

共同炊事大好評

＝田代部落＝

機械化が進み、昔ながらの田植風景が次第にうすれて来ていますが「猫の手も借りたい」と言われる農繁期の多い人たちは、婦人の過労を防止し、同時に栄養面の改善をは

かすることを目的に、須郷部落に次いで農繁期間中の共同炊事(夕食用の副食)を実施地区民から好評を得ました。へき地保健福祉館に併設された生活改善総合センターを利用して炊事を担当した渡辺イ子さんら三人のグループは「初年度だけに不安もあったが、予想外に評判がよく安心した。来年からもぜひ続けた

勤務職員募集

【受験資格】昭和28年4月2日～31年4月1日までに生まれた男子。【申込期間】七月二十日～八月三日。【受験料】不要【第一次試験】十月七日。県内の試験地は秋田・横手・大館の各市。【合格発表】十月三十一日。【第二次試験】第一次合格者に通知。【採用予定人員】東北地区約二八〇名。受験案内や受験申込書用紙は本庄税務署で準備しています。

保健婦日記

〇月〇日 晴

▶8時30分＝課内での打合せ
▶8時40分＝数日来、時間のあいだ間をみて続けている乳児や高血圧症患者の戸別訪問指導計画に目を通し、本日の訪問先、指導内容等を再確認。
▶8時55分＝血圧計その他の必要用具をそろえ、愛車スズキフロントベンに積み込み車庫を出る。
▶9時20分＝役場から6キロの国道から入った未改修県道を通って最初にKさん宅を訪問。乳児の経過観察と指導が主目的。家族全員で出かけるところだったので後日にゆずり引き返す。

▶9時30分＝途中、高血圧で長期入院歴のあるEさん宅を訪問。調子が悪く休んでいたEさん起きて、最近の変調を訴える。数日前、県立脳研センターへ行き診察を受けたときの疲れらしいという。休んでいただけに痛々しい。しばらく話し込んだあと血圧計測、いく分高めだがまずまず。

向いのおばあさんが保健婦の来訪を待ちわびていたことを聞き、職務の重要性を感じさせられ、勇気づけられる。ハリ治療をうけてみたいというEさんの希望に添って病院へ照会連絡することを約束して帰る。

▶10時10分＝前日に訪問しかねたN部落Sさん宅へ。乳児および十数年前に発病、半身不自由な高血圧症の婦人がいるはず。乳児は母親と共に実家へ遊びに行き留守。半身不自由な婦人との会話。「薬は継続していますか」「ええ、富山の薬…」「富山の?」婦人にかわって主人のSさんが薬びんと現物を持参。…心臓病、高血圧…効能が列記してある。「この薬もよいでしょうがたまにはお医者さんの診察もうけないと…」「発病以来この薬を飲み、

仕事の倍増ワチームで対処

村民との接触積極的に

保健婦

【写真】左、食生活の根本献立表を説明【写真】下、留守家族から家族の状況を聞く。

人間生活を快適にし、幸福を感じられる最大の条件として「健康であること」があげられます。本村では村民の健康保持・増進のため各種の保健衛生施策を講じていますが、保健婦による健康相談や助言・指導もその一つです。

昨年まで二名であった保健婦のうち一名が退職したため本年度は伊東志津子保健婦一名で、全村をまわり、村民の健康管理や保健衛生指導に専念しています。二人でやっていた仕事を一人で担当することになっただけに仕事の量も倍増していますが住民へのサービスを低下させないため庁内係間の連携を密にして保健婦を支援、前年度に劣らない積極的な活動を展開しています。

今回は、そうした伊東保健婦の最近の活動ぶりを写真を中心に紹介してみたいと思います。



【写真】明日から始まる予防接種の準備

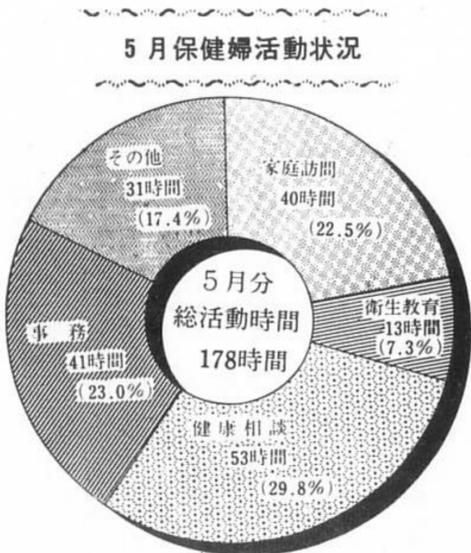


健康、しあわせな生活に最上の利益



【写真】新生児を前に、若いお母さんにごまごまの注意を促す

家庭訪問25% 衛生教育10%



上図は保健婦の活動状況(五月分)を示したものです。のぞましい保健婦業務の標準は、家庭訪問、健康相談、集団検診、事務等の所要時間が総勤務時間の各25%、衛生教育10%、その他が15%とされており五月分ではほぼその標準に近づいています。今後、一層工夫をこらし、活動を標準に近づけようと努力を続けていきます。

おわりに

中国の古い言葉に、「健康は最上の利益、心やすらぎは最上の幸福」といふ一節があります。全村民に最上の利益を上げさせる健康カウンセラーの保健婦活動には、今後ますます大きな期待がかかります。行くことのできる。

別に医師にかからなくとも死なないから、効いているんでしょ…」とその婦人「個人の身体は個人の管理が最善」とはいえ、売薬にだけ頼り切っていることに不安を感じる。数カ月、いや年1回でもよい、医師の診察をうけることも必要であることをすすめてSさん宅を後にする。

▶11時0分＝高血圧症のOさん宅へ。話し好きなOさん元気な顔を見せて「きのうも医者に行ってきた。薬は欠かすことがない。今日は血圧測定はいらない…」と語り、食生活や社会情勢へ話がはずむ。

一人の患者を中心に、家族全員が食生活に留意し健康管理に気を配っている様子聞き、ほのぼのとしたものを感じる。みんなこうであってほしい。次回の訪問を約束してとま。

▶11時20分＝最後に乳児を持つUさん宅へ。身長や体重の計測をしながら若い母親にこまごまと注意。成長の早さを細める家族たちとともに健やかな成長を祈って帰路につく。すでに12時30分をまわっている。

▶14時5分＝遅い昼食をすませ、明日の出張に備えて書類の点検整理を開始。

▶15時40分＝明日からは予防接種も始まる。自分が出張するだけにおさおさ準備を怠ってはならない。

▶17時5分＝業務日誌の記入と1日の反省。車の走行距離は35キロ。効率的な訪問計画をたてなければ村民と接する時間が少なくロスが多い。多くの人たちと接するにはもっと話題を豊かにすることも必要。最善を尽くしスキップで取り組まなければならない職務への自己反省…。明日からも頑張らなくっちゃ…

▶17時20分＝やりかけの書類をかかえて家路へ。